



ブライツ・アセット株式会社

## イギリス首相決まる EU 離脱の行方

### EU 離脱に向けた再交渉が始まるが、前途多難

英与党・保守党のジョンソン党首が 24 日、首相に就任した。就任直後の演説で、期限通りに欧州連合(EU)から離脱する唯一の道が合意なき離脱であるならば、英国はその「わずかな可能性」に対して準備を進めていくと宣言した。ジョンソン氏はブレグジットは実現不可能だとする「悲観主義者」を批判し、国民投票から 3 年におよぶ優柔不断を終わらせようと訴えた。「イギリスの失敗に賭けた人たちは、すっからかんになる。イギリスは民主主義への信頼を回復するからだ」「今こそ行動し、決断し、この国をもっと良くすべきだ」と述べた。ジョンソン氏は、10 月 31 日までの 99 日間で EU と合意を得て離脱することに「あらゆる自信」があると話した。その一方で、「ありえない万が一のために」合意なしブレグジットに向けた準備を加速させると述べた。しかしながら、EU との交渉にはさまざまな難関が控えている。EU のミシェル・バルニエ首席交渉官は、「首相となるジョンソン氏と離脱協定の批准と秩序のあるブレグジットを実現するのを楽しみにしている。我々は EU のガイドラインに沿った新たな関係をつくる宣言の合意に向けてはたらく準備ができています」とツイートした。

2019/07/23

金融商品取引業者：ブライツ・アセット株式会社  
登録番号：関東財務局長（金商）第 3102 号  
加入協会：一般社団法人第二種金融商品取引業協会  
一般社団法人金融先物取引業協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会  
HP：www.brightasset.co.jp

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライツ・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

# イギリス首相決まる EU 離脱の行方

EU 離脱に向けた再交渉が始まるが、前途多難

## ボリス・ジョンソン氏が英首相に就任、「10月31日にEUを離脱する」

イギリスの与党・保守党党首選に勝利したボリス・ジョンソン氏は24日、バッキンガム宮殿でエリザベス女王と会見し、正式に首相となった。 Downing 街の首相官邸前で初の記者発表を行ったジョンソン氏は、「この国をもっと良くしたい」と熱弁した。

首相になって間もないジョンソン氏は、**10月31日に欧州連合（EU）離脱を実現する予定については、「『でもしか』はなしだ」と強調し、「決定権は私にある」と表明した。**その上で、期日までのブレグジット（イギリスのEU離脱）について「**疑う人、悲観的な人、悲しみに暮れている人**」は「間違っている」と述べた。

ジョンソン氏の就任前、テリーザ・メイ前首相は下院で最後の首相質疑を行った後、エリザベス女王に退任を報告した。首相官邸を去る際にメイ氏は、ジョンソン氏の政府の「成功はこの国の成功になる」と述べた。

ジョンソン氏はこれから組閣作業に入る。しかし、すでにメイ政権の閣僚の多くが辞任を表明し、ジョンソン政権への参加を拒否している。**首相官邸前で報道陣を前にした13分間の声明で、ジョンソン氏はブレグジットは実現不可能だとする「悲観主義者」を批判し、国民投票から3年におよぶ優柔不断を終わらせようと訴えた。「イギリスの失敗に賭けた人たちは、すっからかんになる。イギリスは民主主義への信頼を回復するからだ」「今こそ行動し、決断し、この国をもっと良くすべきだ」**ジョンソン氏は、**10月31日までの99日間でEUと合意を得て離脱することに「あらゆる自信」があると話した。**その一方で、「ありえない万が一のために」**合意なしブレグジットに向けた準備を加速させると述べた。**

内政については、高齢者に対する福祉政策を「今度こそ」実現すると約束したほか、交通インフラや教育への投資拡大を掲げた。また、国民保健サービス（NHS）に対する200億ポンド（約2兆7000億円）の追加予算を確約するための改革を「最優先事項にすべきだ」と話した。

ジョンソン氏はさらに、イングランドとスコットランド、ウェールズ、北アイルランドを「素晴らしい4カ国（awesome foursome）」と呼び、EU離脱後のイギリスを強化するために4カ国を一致させると約束した。「私はきょう、これから素晴らしい内閣を作るが、私が実現したい変化のために個人的に責任を負う」（アイルランド国境をめぐる）バックストップ（安全策）のことは忘れてほしい。決定権は私にある」

## 環境保護団体が妨害

ジョンソン氏とエリザベス女王の会見は30分以上に及んだ。バッキンガム宮殿へ向かう途中、宮殿前の大通り「ザ・マル」を環境保護団体グリーンピースがふさぎ、ジョンソン氏の車を妨害する場面もあった。

記者発表を行った首相官邸前には、ジョンソン氏の交際相手のキャリー・サイモンズ氏の姿もあった。

（BBC 2019/7/25より）

## ジョンソン英首相就任、10月末のEU離脱を約束「たられれば無用」

英与党・保守党の党首選に勝利したボリス・ジョンソン氏(55)が24日、メイ氏の後任の首相に就任した。ジョンソン氏は就任後の演説で、最大の懸案である欧州連合(EU)からの離脱について、10月末の離脱に「たられれば」は必要ないと明言。またEUが交渉を拒否すれば「合意なき離脱」に向かうと警告した。

ジョンソン首相は官邸前で、EU 離脱協定を巡り EU から「新たな合意、より良い合意」を取り付けるとした上で、「国民との約束を果たすべく、10月31日にEUを離脱する。たられはならない」と表明。同時に「アイルランド国境に検問を置かない離脱は可能だが、もちろんEUが今後の交渉を拒否し、われわれが合意なき離脱を迫られる可能性は多少あるわけで、そのための準備を進めることは大事だ」と述べた。

**焦点となるアイルランド国境問題については、解決策はあり得ると主張。問題を解決できない場合のバックストップを巡って「心配する必要はない。責任は私が取る（バックストップ・ヒア）」とし、安全策は民主主義に反すると訴えた。また本意ではないとしながらも「合意なき」離脱への準備を加速させると約束した。**

**ジョンソン首相はこの日組閣に着手。財務相にジャビド内相、外相にラーブ前離脱担当相を指名した。パークレイ離脱担当相は留任。内相にはパテル元国際開発相を指名した。**

(ロイター 2019/7/25 より)

## ボリス・ジョンソン前外相、イギリスの次期首相に決定 英保守党党首選

イギリスの与党・保守党は23日正午すぎ、党首選でボリス・ジョンソン前外相が勝利したと発表した。ジョンソン氏は24日、正式にイギリスの首相となる。ジョンソン氏は9万2153票を獲得。対立候補のジェレミー・ハント外相は4万6656票に留まった。投票率は87.4%だった。

ジョンソン氏は演説で、党首に選ばれたことは「非常に名誉なことだ」と話し、「皆さんの判断が賢明だったか疑問に思う人たちはいるでしょうし、この場にも自分が何をしてしまったのかと不安に思っている人たちがいるでしょう」と述べた。「私はここで、賢明な知恵を独占している人や党はいないと言いたい」「しかし保守党の200年の歴史を見れば、この党は人間の本性について最高の洞察を持ち続けてきたことが分かります」

ジョンソン氏はまた、保守党の信頼に応え、今後選ぶ内閣と共に「全力」で取り組むと述べた。「きょうは我々の歴史にとって転換点となる日です。私たちは2つの本能、2つの高潔な本能を調和させなくてはならない。ひとつはイギリスと欧州の友好国との友情と自由貿易、安全保障と国防における相互支援への欲求。もうひとつは、イギリスの民主的自治への深く誠実な欲求です。「もちろん、この2つは調和できない、不可能だという人もいます。きょうのフィナンシャル・タイムズには（中略）これほど気後れするような状況で就任する新首相はかつてなかったと書いてありました」「しかし今朝の皆さんを見てお聞きしたい。皆さんは気後れしているように見えるか」「まったくそんなようには見えません。私たちは結果を出せると思うし、イギリス国民も私たちを信じていると思います。自分たちは結果が出せると、自覚している」「選挙活動中に何をマントラのように繰り返したか。ブレグジットを実現し、イギリスを一致させ、（最大野党・労働党の）ジェレミー・コービン党首に任せることです。私たちはその通りに実現していきます」「選挙活動は終わり、仕事が始まります」

保守党党首は、所属の下院議員によって候補が2人まで絞られた後、イギリス全土の保守党員16万人による郵便投票で決まった。保守党員がそのまま現職のイギリス首相となる党首を直接選ぶのは、今回が初めて。党首選では、元ロンドン市長でもあるジョンソン氏が一貫して優勢だった。その一方で一部の保守党幹部はすでに、ジョンソン氏の内閣には参画しないと表明している。

テリーザ・メイ首相は23日に最後の閣議に参加。24日に議会で首相質疑を行った後、エリザベス女王に辞任を伝える。その後、バッキンガム宮殿で次期首相が正式に発表される。メイ氏は欧州連合（EU）離脱政策が下院で受け入れられず、退任を発表した。

ジョンソン氏は、2016年のブレグジット（イギリスのEU離脱）をめぐる国民投票では離脱派を主導。国民投票後の党首選にも出馬したが早い段階で退いた。それに対して今回の党首選では、開始直後から最有力候補となっていた。

約1カ月に及んだ党首選では、EU離脱が焦点となった。イギリスは当初、3月29日にEUを離脱する予定だったが、議会が離脱協定を3度にわたり否決したため、EUは離脱期限を10月31日まで延長した。ジョンソン氏は、EUとの協定合意があってもなくても、10月31日の期日にEUから離脱すべきだとしている。また、すべての閣僚はこの期日で妥協すべきだと主張している

る。この案については、フィリップ・ハモンド財務相、デイヴィッド・ゴーク法務相、ローリー・スチュワート国際開発相などが反対しており、ジョンソン氏が首相となった場合は辞任すると表明している。

### イギリス国内外の反応は？

ハント氏はツイッターでジョンソン氏の勝利を祝うコメントを発表。「この大変な時期のイギリスにとって素晴らしい首相になるだろう。党首選を通してあなたは楽観主義とエネルギー、そして我々のすばらしい国に対する尽きることのない自信を見せた。私たちにはそれが必要だ。実業家から、成功を願っている」と述べた。メイ首相は「イギリス全体のためのブレグジットを実現し、ジェレミー・コービン党首に政権を渡さないよう協力する必要がある。議席から応援しています」と述べた。労働党のコービン党首は、「ボリス・ジョンソンは富裕層の減税を約束し、銀行家の友達だと喧伝（けんでん）し、有害な合意なしブレグジットを推し進め、10万人以下の保守党員の支持を得た。しかしイギリスという国の支持派得ていない」と批判している。EUのミシェル・バルニエ首席交渉官は、「首相となるジョンソン氏と離脱協定の批准と秩序のあるブレグジットを実現するのを楽しみにしている。我々はEUのガイドラインに沿った新たな関係をつくる宣言の合意に向けてはたらく準備ができています」とツイートした。アメリカのドナルド・トランプ大統領もお祝いのツイートを投稿し、「（ジョンソン氏は）きっとよくやる！」と書いた。

（BBC 2019/7/23より）

### ボリス・ジョンソン氏の経歴は

ボリス・ジョンソン前外相は、イギリスで最も有名な政治家の1人だ。保守党党首選の議員投票で第1位を維持し、ジェレミー・ハント外相との決選投票に臨む。次期党首は自動的にイギリスの首相となる。決選投票の結果は、22日に発表の予定。しかし下院議員、ロンドン市長、そして外相と積み上げてきたジョンソン氏の経歴には、異論と批判が付きものだった。

#### 雑誌編集者から下院議員へ

週刊誌スペクテイターの編集長、そしてBBCのニュース風刺番組「Have I Got News For You」の出演者として、ジョンソン氏は早くからその破天荒なキャラクターが有名になった。2001年に、オックスフォードシャーのヘンリー・オン・テムズ選挙区で前任のマイケル・ヘスルスタイン元国防相に代わり立候補し、議員となった。

#### 同性愛者の権利

ジョンソン氏は他の多くの保守党議員よりは、リベラルだとされている。ジャーナリスト時代には、地方自治体が同性愛を積極的に宣伝することを禁止する法案の撤回に疑問を投げかけたこともあった。しかし議員になってからは立場を変え、国家が国民の生活に干渉してはならないと主張した。シビル・パートナーシップ（市民婚）制度の導入にも賛成票を投じている。ジョンソン氏の行動は議論を呼び続けた。ジョンソン氏はスペクテイター時代、リヴァプール出身のエンジニア、ケン・ビッグリー氏がイラクで誘拐され殺された事件について、リヴァプール市民が「過度な」悲しみを示して同情を買おうとしたとする批判記事を掲載した。マイケル・ハワード保守党党首（当時）は2004年10月、この記事についてジョンソン氏にリヴァプールへ行き謝罪するよう命令した。また翌11月には、スペクテイターのコラムニスト、ペトロネラ・ワイアット氏との交際についてハワード党首に誤情報を伝えたとして、影の芸術相を解任されている。しかし、翌年になると早くも、党内の要職に返り咲く。新たに保守党党首となったデイヴィッド・キャメロン氏が、ジョンソン氏を芸術相よりも上位の影の教育相に任命したのだ。これを受けてジョンソン氏はスペクテイターでの仕事を辞めた。しかしそれ以降も、英紙テレグラフでコラムニストとして寄稿し続ける。ある時にはパプア・ニューギニアを「食人文化と首長殺し」と結びつける記事を書き、後から同国の国民に謝罪している。2007年までに、ジョンソン議員はイギリス政界でもっとも力のある役職のひとつに目をつけた。

#### ロンドン市長（2008～2016年）

2008年に労働党のケン・リヴィングストン氏を破ってロンドン市長となったジョンソン氏は、2016年まで務めた。ジョンソン氏が担った公職の中では、最も長い在任期間だった。ジョンソン氏は、ロンドン市長時代の功績として犯罪、住宅、そして交通政策の成功を上げている。ジョンソン陣営が運営するツイッターアカウントも、市長時代の功績をイラストで示しながら「ロンドン市長として、我々は約束を守り、市民全員のために実現した。同じことをイギリス全体にしたい」と呼びかけている。

## 犯罪

ジョンソン氏の市長在任中、ロンドンの殺人発生率は100万人当たり22人から12人に減少した。しかしこの数字は、前任のリヴィングストーン氏の2期目からすでに下がり始めていた。一方、ジョンソン氏が就任してから最初の数年は、刃物による犯罪が15%増加した。ただし、これも2012～13年以降は減少に転じている。ジョンソン氏は、暴力犯罪に対処するため、警官による職務質問の強化を支持した。また、イギリス政府が警察官の削減を行う中、ロンドンでは警察官の数を維持すると話していた。内務省の発表によると、2008年3月から2016年3月の間に、ロンドンの警察官の数は3万1460人から3万2125人にわずかに増えている。一方、イングランドとウェールズでは、全体で1万7603人減った。

## 住宅

購入可能な新築住宅の数は2016年3月までに10万1525軒増加し、うちグレーターロンドンの自治体が9万4001軒を提供した。これはリヴィングストーン時代によりも増加しているものの、「購入可能な住宅」の定義が2011年に変更されたため、直に比較することはできない。

## 交通

ジョンソン氏は、それまでロンドン市内を走っていた2両編成のバスを廃止した。細い道には不向きなことで、運転士の目が行き届かずきせる乗車を助長するためとしている。その代わりとして「ルートマスター」と呼ばれる旧式の2階建てバスの復刻版を展開したが、この動きは単なるうぬぼれだと批判された。開かない窓に対する苦情や、ハイブリッドエンジンの問題があったほか、通常のバスよりも維持費が非常に高かったからだ。また、ジョンソン氏による交通政策で最も有名なのは、2010年7月から始まったレンタサイクル、通称「ボリス・バイク」だ。ジョンソン氏は自ら頻繁にレンタサイクルに乗り、便利さをアピールした。2016年の利用者数は103万回以上に上った。しかし、年間1100万ポンドという維持費を批判する声もある。また、そもそもレンタサイクル計画そのものは、前任のリヴィングストーン市長時代にすでに発表されていたという指摘もある。

## ロンドン五輪

2012年のオリンピック（五輪）に、ジョンソン氏はロンドン市長として関わった。イギリスがロンドン五輪で初めて金メダルを取った際、お祝いとしてジップラインに乗ったジョンソン氏が途中で引っかかり、宙吊りのまま動けなくなった顛末（てんまつ）は、特に印象的だった。ロンドン五輪はおおむね成功したと評価されており、経済にも大きく貢献した。しかし、五輪施設のその後については疑問が噴出。特に、オリンピック・スタジアムをサッカー場に改築する計画には批判が集まった。2017年に独立団体が行った調査によると、この改築にかかる費用は3億2300万ポンドと、当初試算されていた1億9000万ポンドを大きく上回った。

## ガーデン・ブリッジ計画

市長時代の後半、ジョンソン氏は故ダイアナ妃をしのぶものとして、テムズ川に庭園付きの橋をかける計画に着手した。

この橋の構想は1998年に女優のジョアナ・ラムリー氏が発案したもの。歩行者専用の橋には木や草花が植えられ、公的資金と個人からの寄付でまかなわれるというものだった。しかし、この計画はジョンソン氏がロンドン市長を退任したとの2017年に破棄された。それまでに5300万ポンドが計画に費やされたが、うち4300万ポンドが国の財源からの支出だった。

## 外相（2016～2018年）

ジョンソン氏は2016年にロンドン市長の任期が切れる前に、議会に戻りたいと考えた。2015年には、ロンドン北西部アックスブリッジおよびサウス・ライスリップ選挙区で議席を獲得した。その後、選挙区近くのヒースロー空港で拡張計画が持ち上がると、ジョンソン氏はブルトナーの前に寝転がってでも阻止すると反対を表明した。ロンドン市長時代には、ジョンソン氏は代替案としてテムズ川河口の島に空港を作る計画を指示したが、このアイデアは費用と環境面の問題で却下された。しかし、2018年6月にイギリス下院がヒースロー空港拡張計画の採決を行った日、ジョンソン氏は投票を棄権。代わりに、アフガニスタンを公式訪問した。2016年、キャメロン氏に代わって首相に就任したテリーザ・メイ氏に、ジョンソン氏は外相として内閣に迎えられた。ジョンソン氏はこの時の党首選にも立候補していたが、マイケル・ゴーフ現環境相の立候補を受けて取りやめた経緯がある。欧州連合（EU）離脱の是非を問う国民投票前には、ジョンソン氏の外相という立場が離脱派にとってプラスに働いた。しかし、ジョンソン氏の外相起用には驚きの声も上がった。自由民主党のティム・ファロン党首は、ジョンソン氏は外相としての仕事よりも、「怒らせた相手の国に謝罪して回る方で忙しくなる」だろうと皮肉に予測した。実際、ジョンソン氏は外相になる前から、他国やその元首に侮辱的な発

言を重ねていた。たとえば2016年には、トルコのレジェップ・タイイップ・エルドアン大統領とヤギを題材にした詩をスペクテイター上で発表した。この詩はエルドアン大統領の表現の自由規制を批判するために開かれたコンテストに入賞し、1000ポンドを獲得している。また、リビア内戦の激戦地スルトについて、「死体を撤去すれば」ドバイのように発展するかもしれないと発言した。

### ロシアの外交官追放

ジョンソン氏は外相時代、ロシアへの強硬姿勢を支持した。2018年3月にイギリス国内でロシアの元スパイ、セルゲイ・スクリパリ氏と娘のユリアさんにロシア製の神経剤が使われたとされる殺人未遂事件では、ロシア外交官の国外追放を発表した。この件では、イギリスを含むEU加盟国やアメリカやカナダ、オーストラリアなど29カ国で合わせて140人以上のロシア外交官が追放された。

### イラン

しかし、イランで2016年にスパイ容疑で5年の禁錮刑を受けたイラン系英国人のナザニン・ザガリ＝ラトクリフさんについては、ジョンソン氏は議会で謝罪するはめになった。ジョンソン氏は、ザガリ＝ラトクリフさんがイランで逮捕された当時、ジャーナリストの指導に当たっていたと発言。しかし、本人は休暇でイランに来ていたと話していた。その後、ジョンソン氏はザガリ＝ラトクリフさんが休暇中だったと明言したものの、自分の発言が事態に影響を与えたとは思わないと述べた。この発言はザガリ＝ラトクリフさんの家族によって否定されている。ジョンソン氏の発言から数日後、ザガリ＝ラトクリフさんはイランの法廷で、反政府プロパガンダに関わった罪で有罪となった。

### サウジアラビア

サウジアラビアについてジョンソン氏は、中東で代理戦争に関わっていると発言し、首相官邸から叱責を受けた経緯がある。サウジアラビアはイエメンの軍事行動に関わっていたが、ジョンソン氏はこうした発言にもかかわらず、イギリスの対サウジ武器輸出を認め続けた。2018年にはデイリー・テレグラフに、ムスリム（イスラム教徒）女性の一部が身に着ける、全身をすっぽり隠す「ブルカ」が「郵便ポスト」のようだと書き、批判された。しかしこの時点でジョンソン氏はすでに、メイ首相のEU離脱協定に反対して外相を辞任していた。

### EU離脱派の先鋒として

2016年の国民投票でジョンソン氏は、公式の離脱運動「Vote Leave（離脱に投票を）」の主導者として活動した。特にEUへの攻撃と、ブレグジット（イギリスのEU離脱）による恩恵を発信して注目を集め、自身について「ケーキをとってしっかり食べる」派、つまり二兎を追って二兎を得るのだと述べている。しかし、ジョンソン氏が離脱と残留どちらを支持しているのかはいつもはっきりしない。例えばロンドン市長時代には、EU単一市場に加入している恩恵について話していた。EU加盟への賛否を問う2013年のテレグラフ記事では、ジョンソン氏はブレグジットはイギリスの諸問題の解決にはならないと述べている。一方でジョンソン氏は、自分はEU加盟について国民の判断を仰ぐ計画は支持すると明言している。国民投票の期間中、ジョンソン氏は離脱のメリットや「主導権と取り戻す」という主張を繰り返し、残留派からはっきりなしに批判を受けた。

### 3億5000万ポンドという主張

最も物議をかもしたのは、イギリスがEUに支払っている金額をめぐる発言だった。ジョンソン氏はイギリスはEUに毎週3億5000万ポンド（約485億円）を支払っていると主張し、離脱派の広告バスにもその金額を大きく掲げて全国を走らせた。

この主張については、イギリスに対する払い戻しを考慮に入れていないこと、EUへの拠出金はその後イギリス国内で使われていることなどから、3億5000万ポンドという金額は間違っていたという批判が出た。今年5月にはこの件をめぐる、虚偽の情報を拡散したとしてジョンソン氏に出廷命令が出ていたが、不起訴となっている。ジョンソン氏はEU離脱が景気後退を招くとの懸念を否定しており、経済への影響を指摘したある調査結果についてプロパガンダだと説明した。また、メイ首相が続けたEUとの交渉や、その結果2018年にまとまった離脱協定についても厳しい批判を行い、強硬的なブレグジットを推進している。2018年7月に提出した辞表では、メイ首相の協定はイギリスを「植民地状態」にすると述べた。その上で、現在でも協定の有無に関わらず、イギリスは離脱期限の10月31日にEUを出るべきだと主張している。

（BBC 2019/7/1より）